

## 令和5年度第1回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

### 1 開催日時

令和5年5月19日（金） 10:00～12:00

岐阜県庁 17階会議室及びオンラインにて開催

### 2 概要

「アクションプラン2023」の施策内容及び特別支援教育における課題及び取り組むべきことについて、意見を聴取した。

### 3 委員から出された主な意見

- ・西濃地域にも、在宅での障がい者雇用を考えている企業が2～3社あるため、就労につながるよう働きかけていくといい。
- ・生徒が就職した企業を訪問したり、企業関係者が学校現場を見学したり、双方向で研修のような形で連携できるといい。
- ・高等学校の通級指導を進めていくうえで、指導者の育成が課題である。
- ・手厚く就労支援を実施していただいている。さらに充実していくよう継続していただきたい。
- ・郡上特別支援学校の整備について、1校舎体制の早期実現に向けた検討をぜひ進めていただきたい。
- ・飛騨特別支援学校も特別支援学校設置基準を満たしていないため、1校舎体制を含めて検討いただきたい。また、大垣特別支援学校や東濃特別支援学校など、児童生徒数の増加で教室数不足が顕著になってきている学校についても検討いただきたい。
- ・各務原特別支援学校が新設された後、関特別支援学校、中濃特別支援学校の在り方について、検討いただきたい。
- ・当校は、聴覚障がいにクローズアップして進めていただいているが、岐阜県全体（小中高特）として考えたときに、聴覚障がいがある児童生徒への支援をどのように進めたらいいのか、コア・スクール、コア・ティーチャーの活用を踏まえて、検討いただきたい。
- ・肢体不自由、病弱の生徒だけでなく、発達障がいのある生徒についても、在宅就労の在り方を検討していただきたい。
- ・各校の要となる特別支援教育コーディネーターの資質向上は大切と考える。複数年担当しているコーディネーターを対象とした、質を高めるための研修（オンライン）を検討いただきたい。
- ・学校に出入りしているスクールカウンセラーなどの心理職を増やし、専任（常勤）のスクールカウンセラーを置く体制を作ることはできないか。
- ・視覚障がい教育に関して、岐阜盲学校から教員を派遣して通級指導を行う体制がとれないか。弱視の子どもたちのための通級指導教室を設置することを検討いただきたい。
- ・コア・ティーチャーの活用にあたって、センター研修講座の講師依頼、特別支援学校への派遣による相談業務など、積極的な施策をお願いしたい。また、岐阜市の5校のコア・スクールを中心として、飛騨地区や恵那地区などを含め、全県的な特別

支援学校の専門性の維持に向けた動きを作っていただきたい。

- 小中学校の特別支援学級の先生方の専門性を踏まえ、障がい種別ごとに基礎講座、応用講座のように研修を実施する体制を整えていただきたい。
- 高等特別支援学校機能整備に関して、高等学校の中に一定数ニーズのある生徒がいることも踏まえ、高等学校と特別支援学校が一緒に考えながら、高等特別支援学校機能未整備の地域への設置に向けて検討していけるとよい。
- 担任が同行しやすい教員配置等、居住地校交流を充実（双方向の交流を含む）させていくための体制作りを検討いただきたい。
- 岐阜県全体の特別支援教育を推進していくためには、これからもこういったプランを継続・推進していくことがとても重要であり、ぜひぜひ継続していただきたい。